北区人口推計調査報告書

―概要版―

― 目　次 ―

１．総人口の推移

２．７地区別人口の推移

３．人口ピラミッド

４．年齢３区分別の人口推移

（１）人口動向の推移

（２）構成比の推移

５．まとめ

平成２５年３月

北　　区

北区将来人口の推計の概要

１．総人口の推移

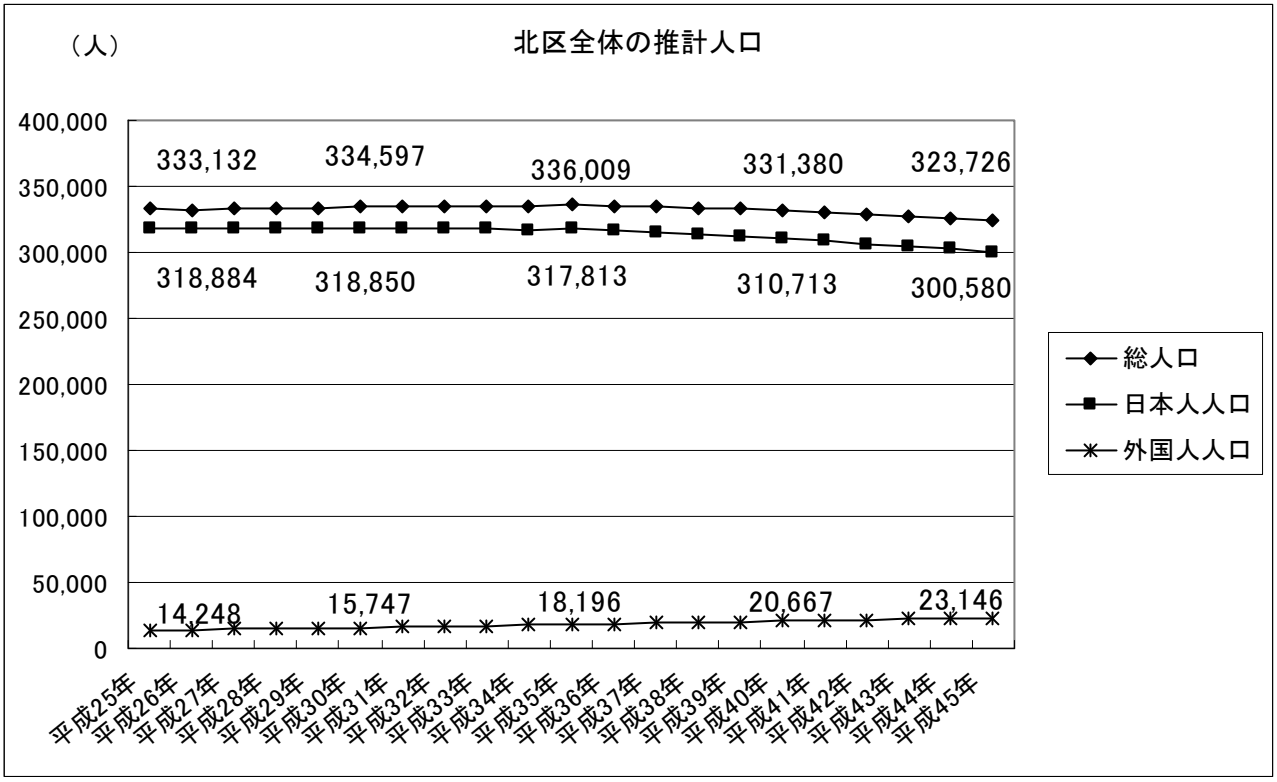
○北区の総人口（外国人人口を含む）は、平成 25 年 1 月 1 日現在、333,132 人である。今回の推計では、平成 35 年までは人口増加となり、336,009 人とピークを迎えるが、その後は減少に転じ、平成 45 年には 323,726 人（平成 25 年より 9,406 人少ない）となる。

○日本人人口は、平成 25 年（318,884 人）以降、ほぼ横ばいで推移するが、平成 30 年代に入ると徐々に減少傾向を示し始め、平成 45 年には 300,580 人（平成 25 年より 18,304 人少ない）となる。

○一方、外国人人口は、平成 25 年（14,248 人）以降、一貫して増加し続け、平成 45 年には 23,146 人になり、増加率は 62.5%と大幅な増加と推計される。

○全国の総人口は平成 22 年の 128,057 千人から減少しており、東京都の総人口は平成 32 年の 13,347 千人をピークに、減少に転じることが予測されている（国勢調査を基準人口とする）。

○平成 22 年の総人口を 100 とした場合、北区の総人口は平成 42 年に 98 に減少し、全国の総人口は 91、東京都の総人口は 99 と、北区は東京都とほぼ同様に人口減少が進行すると推計される。（全国の将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成 24 年 1 月推計）、東京都の将来推計人口は、「東京都区市町村別人口の予測」（平成 24 年 3 月推計）による。北区については今回調査に基づく推計。）

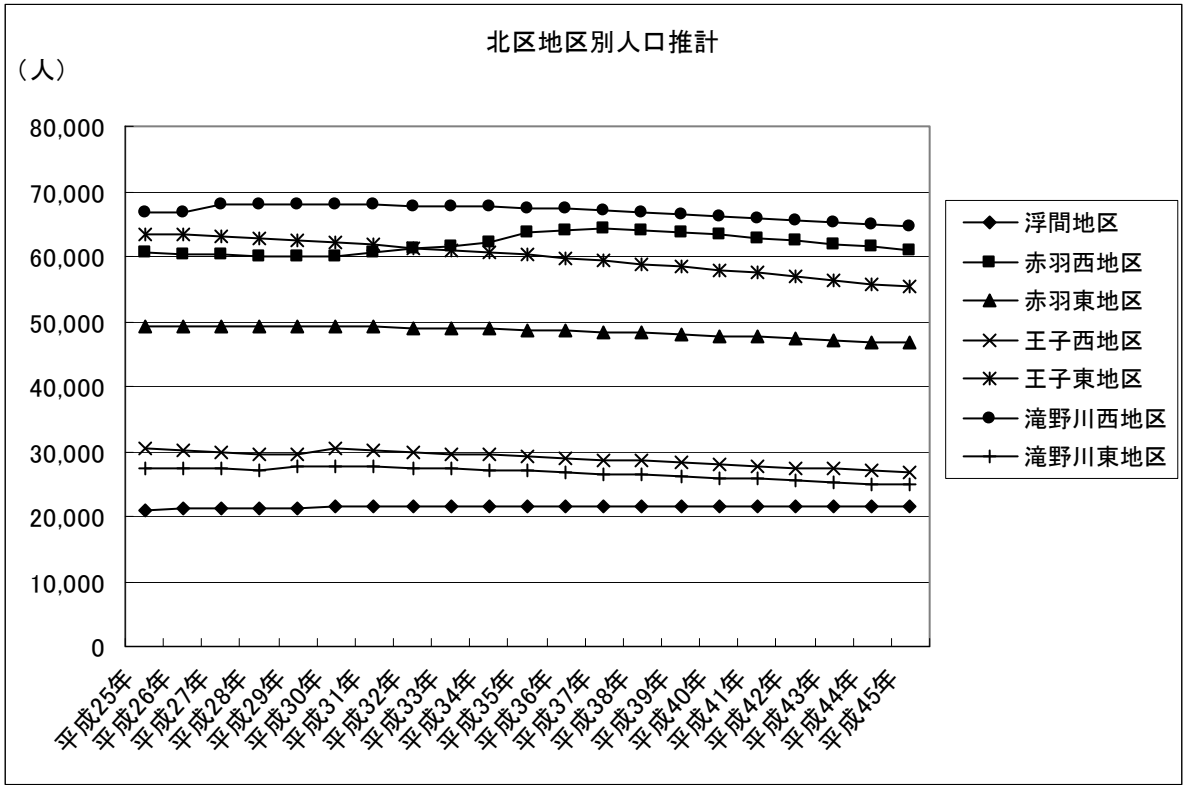


２．７地区別人口の推移

○地区別（外国人人口を含まない）にみると、赤羽東地区、王子東地区では平成 25 年以降、一貫して減少傾向にあり、王子西地区、滝野川西地区、滝野川東地区では平成 30 年から減少傾向となり、浮間地区、赤羽西地区では平成 35 年、37 年にそれぞれ人口のピークを迎えると推計される。

○各地区で平成 25 年から平成 45 年の人口の増減をみると、浮間地区（2.1％増）と赤羽西地区（0.9％増）は僅かに増加している。しかし、その他の地区では、王子東地区（12.9％減）を始めとして、王子西地区（11.6％減）、滝野川東地区（9.6％減）、赤羽東地区（5.4％減）、滝野川西地区（3.3％減）と減少しており、北区全体では 5.7％減となっている。

	平成25年	平成30年	平成30/25年増減率	平成35年	平成35/30年増減率	平成40年	平成40/35年増減率	平成45年	平成45/40年増減率	20年間の増減率
北区	318,884	318,850	0.0%	317,813	-0.3%	310,713	-2.2%	300,580	-3.3%	-5.7%
浮間地区	21,034	21,460	2.0%	21,601	0.7%	21,592	0.0%	21,472	-0.6%	2.1%
赤羽西地区	60,488	59,901	-1.0%	63,625	6.2%	63,245	-0.6%	61,016	-3.5%	0.9%
赤羽東地区	49,335	49,228	-0.2%	48,713	-1.0%	47,814	-1.8%	46,648	-2.4%	-5.4%
王子西地区	30,310	30,352	0.1%	29,175	-3.9%	27,992	-4.1%	26,783	-4.3%	-11.6%
王子東地区	63,528	62,134	-2.2%	60,238	-3.1%	57,905	-3.9%	55,304	-4.5%	-12.9%
滝野川西地区	66,693	68,064	2.1%	67,501	-0.8%	66,211	-1.9%	64,507	-2.6%	-3.3%
滝野川東地区	27,496	27,711	0.8%	26,960	-2.7%	25,954	-3.7%	24,850	-4.3%	-9.6%



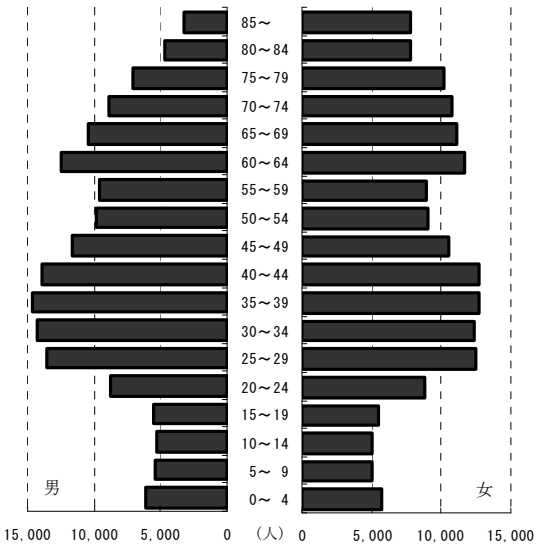
３．人口ピラミッド

○人口ピラミッド（外国人人口を含まない）で年齢構成をみると、平成 25 年に 60～64 歳の膨らみを持つ団塊の世代（昭和 22～24 年の出生）が自然減少しながら、平成 45 年で 85 歳前後に移行している。

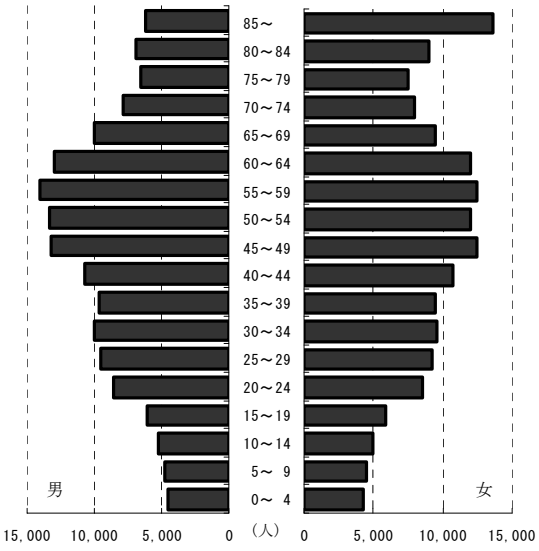
○平成 45 年の人口ピラミッドで、膨らみの大きい 50 歳代は、団塊ジュニア世代（昭和 45～49 年の出生）によるものである。

○少子高齢化の進展により、年齢構成のアンバランスが一層進む。

平成 25 年（2013 年）



平成 45 年（2033 年）



４．年齢３区分別の人口推移

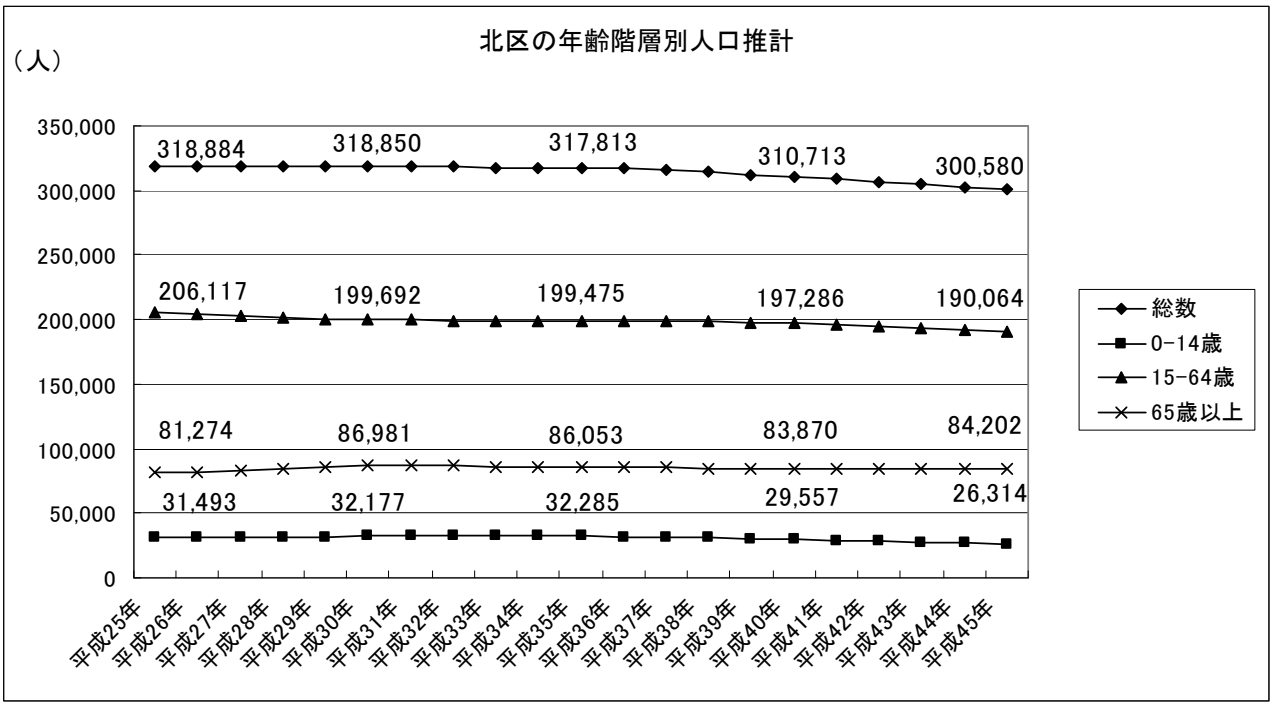
（１）人口動向の推移

○年齢３区分別（外国人人口を含まない）にみると、平成45年には年少人口（0～14歳）が26,314人（平成25年比較で5,179人減少）、生産年齢人口（15～64歳）が190,064人（同16,053人減少）、高齢者人口（65歳以上）が84,202人（同2,928人増加）と推計される。

○20年間の推移をみると、年少人口は平成35年（32,285人）にピークを迎え、その後減少に転じる。減少に転じた後は、次第に減少のテンポを速めると推計される。

○生産年齢人口は、平成34年（199,029人）まで減少を続け、平成35年で一時増加するが、その後再び減少傾向となる。

○高齢者人口は、平成30年（86,981人）まで増加を続け、ピークを迎えた後、減少に転じるが、平成40年以降、再び増加傾向となる。国立社会保障・人口問題研究所編「日本の地域別将来推計人口」（平成25年３月推計）においても、北区の高齢者人口は平成42年以降、再び増加に転じており、再びピークを迎えることが想定される。



（2）構成比の推移

○年齢３区分別人口比率（外国人人口を含まない）をみると、年少人口比率は、平成 25 年の 9.9%から 1.1 ポイント低下し、平成 45 年には 8.8%になる。

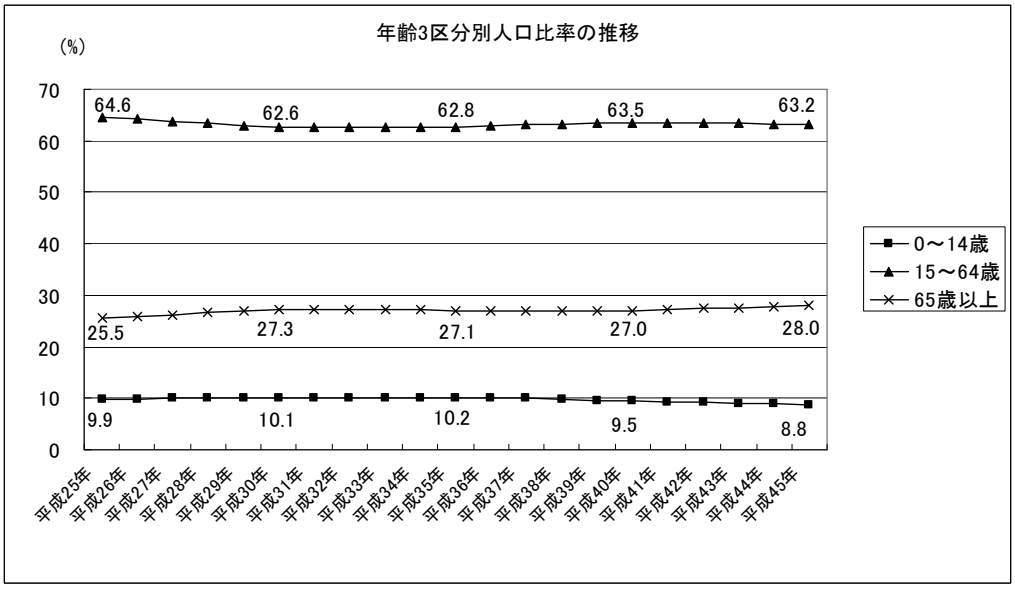
○生産年齢人口比率は、平成 25 年の 64.6%から 1.4 ポイント低下し、平成 45 年には 63.2%になる。

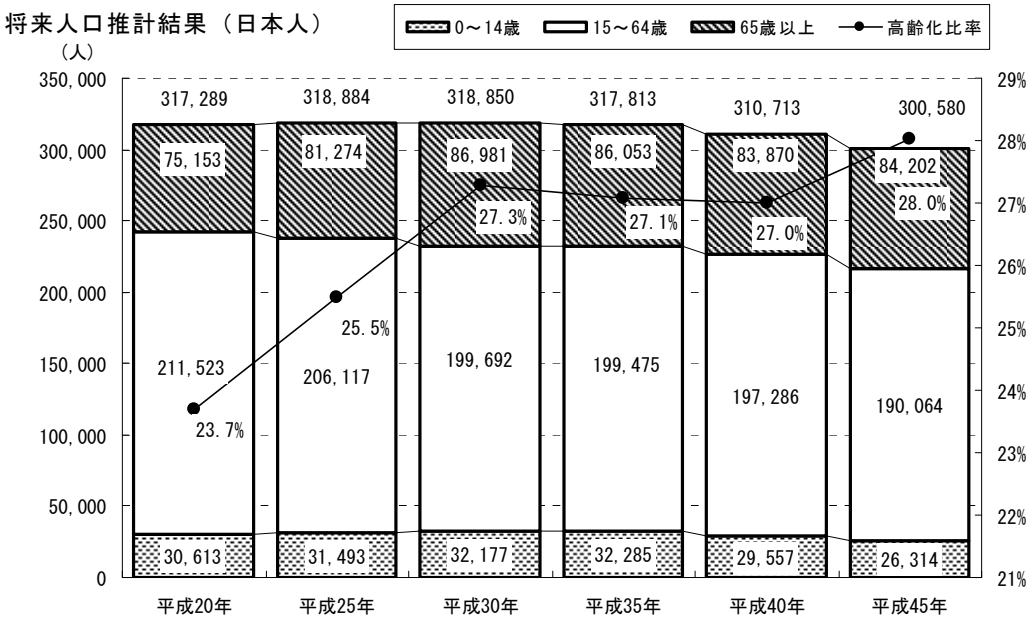
○高齢者人口比率は、平成 25 年の 25.5%から 2.5 ポイント上昇し、平成 45 年には 28.0%になる。

○7 地区別にみると、平成 45 年に最も年少人口比率が高い地区は浮間地区（10.1%）で、最も年少人口比率が低い地区は滝野川東地区（7.5%）である。

○最も生産年齢人口比率が高い地区は浮間地区（65.9%）で、最も生産年齢人口比率が低い地区は赤羽西地区（61.6%）である。

○最も高齢者人口比率が高い地区は王子東地区（29.6%）で、最も高齢者人口比率が低い地区は浮間地区（24.0%）である。





５．まとめ

○昭和 40 年以降減少し続けてきた北区の総人口は、新たな大規模開発の影響により、ここ数年緩やかな増加傾向にあり、この傾向は平成 35 年まで続き、その後減少に転じると予測される。

○減少の要因の１つめは、年少人口の減少であるとみられる。年少人口は、平成 35 年のピークまで増加を続けるが、その後減少傾向となり、減少数において 16.4%の減少、構成比において 1.1 ポイントの低下となる。

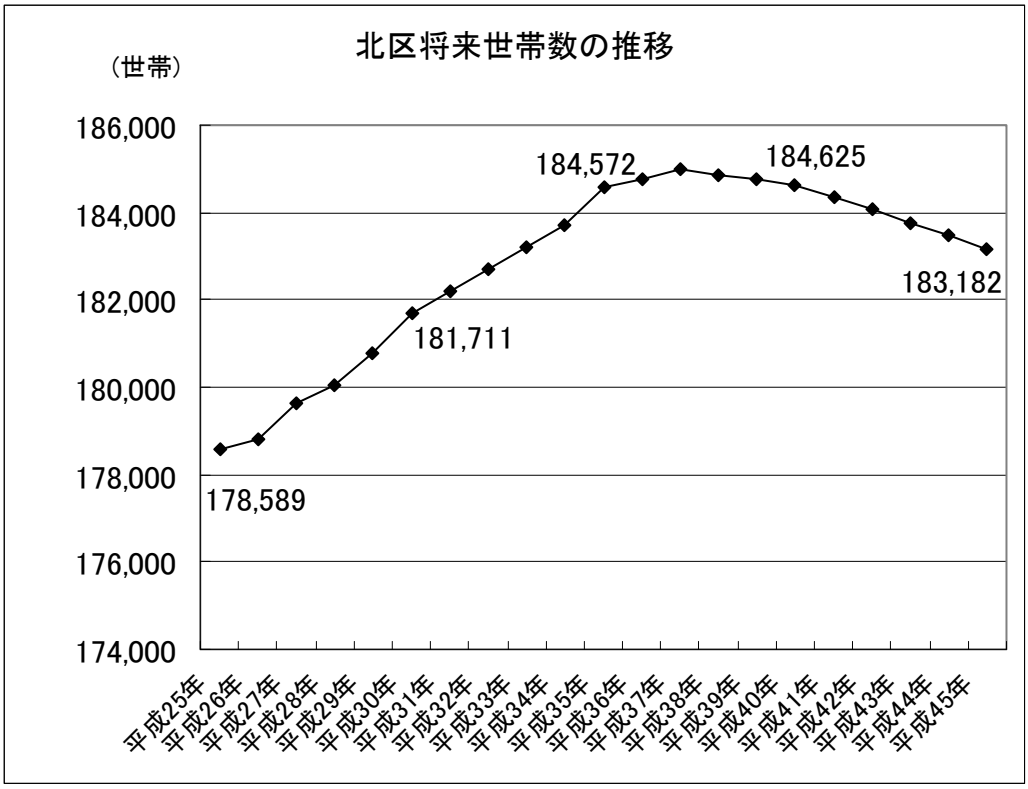
○減少の要因の２つめは、生産年齢人口の減少であり、減少数において 7.8%の減少、構成比において 1.4 ポイントの低下となる。これは主に加齢による高齢者層への移行が中心と考えられる。

○高齢者人口は、団塊の世代が６５歳以上となる平成 25 年から増加し、平成 30 年にピークを迎え、その後減少に転じるが、平成 40 年以降、再び増加傾向となる。

○北区の世帯数は平成 37 年の 184,983 世帯をピークに、その後減少に転じ、平成 45 年には 183,182 世帯と推計される。減少に転じる最大の要因は、15～64 歳の生産年齢人口の伸び悩みである。

○外国人人口は、平成 25 年 1 月 1 日現在 14,248 人で、20 年後の平成 45 年には 23,146 人と、増加を続けていくとみられる。

○これらにより、今後 20 年間の人口動向は、これまでより減少傾向が緩やかになるものの、依然として少子高齢化の進展による年齢構成のアンバランスが一層進む。



北区人口推計調査報告書（概要版）

平成２５年３月

刊行物登録番号
２４－１－１４２

発　　行　　北区政策経営部企画課
北区王子本町１－１５－２２
電話　０３（３９０８）１１０４（直通）

調査分析　　㈱総合環境計画
江東区牡丹１－１４－１
ＫＤＸ門前仲町ビル
電話　０３（５６３９）１９５１